

年間テーマ
「共に暮らす家族を大切に!」



No.372

ペンテコステ

2020年9月1日発行
(毎月1回1日発行)

カトリック谷山教会

891-0113
鹿児島市東谷山2-33-13

TEL 099-268-2084
FAX 099-268-5738

E-mail: taniyama-cc@lagoon.ocn.ne.jp URL: http://www5.ocn.ne.jp/tyco/

発行人: 頭島 光 神父 編集委員: 太田 勇次郎 岸 誠之助 上原 敏子 上釜 照美

ペンテコステ9月号—巻頭言—

カトリック谷山教会 主任司祭 トマス 頭島光

「教会とミッション」

新型コロナウイルス感染症は世界で2600万人を数え、86万人以上の方々の方が亡くなりました。日本もクラスター感染が各地で爆発、第二波に襲われています。感染拡大は留まることなく7万を超え、死者数も既に1300人を超えました。このような状況は一体、いつまで続くのか、もはや誰にも予測できません。本当に終息はあるのかさえ疑いたくなります。来年3月ころにはワクチン摂取も始まると言われていますが、それでも元の日常には戻れないでしょう。いずれにせよ<教会>はたとえそのような困難な状況下であろうとも、ミサは開祭し終息のため祈ります。まして、キリストの教会は福音宣教を止められません。何とかして一歩でも神の救いを進めたいのです。父なる神は、今日も私たちに「行きなさい!」と命じておられるからです。

◆ミッションする教会

先月の年間第21主日の福音はマタイでした。あの有名な「天の国の鍵がペトロに渡される」という話でした。「すべての民をわたしの弟子にきなさい。彼らに父と子と聖霊の名によって洗礼を授けよ。わたしはいつもあなた方と共にいる」。これが、マタイ福音書の結びの言葉です。つまり「教会は本性上、宣教する」ものであり、宣教することが使命(ミッション)なのです。だから、もし宣教をしないなら、もはや教会ではないのです。

◆キリスト者の使命

マタイでは「全ての人をわたしの弟子にして洗礼を授けること」を最大の使命としています。そのためイエスは「行きなさい」と弟子に言うのは、ミサが終わると司祭が信徒に向かって「行きなさい」と言うのと同じです。教会の使命である宣教を実行するため、不可能と思われる愛の行動を実践するのです。ミサに預かるのは、イエスによって託されたこの宣教の使命を果たすためです。宣教の力を得るために、み言葉を聞きご聖体に預かります。「世に出かけて行って、また帰って来る」。それがキリストの教会です。神は教会に戻ってきたキリスト者を勇気づけ、力づけ、励ましてまた世へと送り出すのです。

◆宣教と派遣

教会は宣教するというミッション、つまり使命へと派遣されているのです。車でいうミッションは、速度を変える装置です。この装置を操作し、走るスピードを変えて目的地に到着する。まさにその使命の達成のため派遣されること、それがミッションというわけです。トム・クルーズ主演の「ミッション・インポッシブル」というアクション映画がありました。とても不可能と思われる使命を託され、派遣されます。ひょっとしたら自分もまた同志にも命の危険が及ぶかもしれない。「当局は一切これに関知しない」とテープが消滅する。そんな映画がありましたが、教会は宣教使命を信者に託して派遣します。ミサに預かった信徒はこうして世に出向いていくのです。

◆神の国の完成

キリストの教会の目的は、「神の国の完成」です。イエスによる初めの言葉は「神の国は近づいた。悔い改めて福音を信じよ」(マコ 1:15)でした。神の国とは「真の人が生きる場」であり、「それが迫っている」ので、今すぐ心を神に向け、救いの喜びに耳を澄ませよと言っています。まだ世の終わりは来ていません。「神の国の完成」は自ら用意して待つことです。それぞれ、我らがその使命を果たせますように。



典礼の一口メモ

ミサ典礼とは、聖なる集会の場において、実現する。その意味は、イエスが成し遂げた救いの記念を思い起こし、神を賛美し感謝するということである。ミサ典礼の始まりに外から中に入って来る私たちはみな呼ばれた者たちです。礼服を身につけ、心改め、新たにされることを希望している者たちだからです。まず神のみことばを聞きます。この救いのみことばに勇気付けられ生かされてきたことに改めて喜びを感じとり、神に賛美を捧げます。これら二つの出来事を通して私たちは互いに深くキリストと結び合わされるのです。つまり、「神の言葉」と「キリストの食卓」です。典礼はこの二つの事柄によって構成されているのです。祭壇上に用意されたパンとブドウ酒は、神のからだとなったみ言葉です。御体をいただくとき、み言葉を思い起こしてください。こうして祭儀の始まりから終わりにかけてミサ典礼に預かる人は、自分の心も魂もすべてを新しく変えていただいたのです。ですから、その恵みを受けるために私たちは聖堂内において沈黙を守るのです。